

# 1 本県のめざす授業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、本県では「問い」が生まれる授業を提唱しています。

子供たちが主体的に学び、現在の学びを次の学びへとつなげるためにも、「問い」が生まれる授業をめざしていきましょう。

## 本県のめざす授業

本ガイドにおける「問い」とは、学習の過程で児童生徒の中から生じてくる疑問、問題意識、探究心などを指しています。

「問い」は、現在の学びを次の学びへとつなげ、学習への主体性や意欲を高める原動力になるものと捉えています。

### 本県のめざす子供の姿・授業

#### 【めざす子供の姿】

- ・主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ
- ・他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める
- ・学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ

#### 【めざす授業像】

他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

### 単元を見通した授業改善

学習指導要領（平成29年度告示）では、育成を目指す資質・能力が3つの柱で整理され、それらの資質・能力を育むために「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が提唱されています。今後一層、児童生徒が主体的に課題解決に向かい、対話を通して深く学ぶ授業への転換が求められます。

「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも一単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するかという単元デザインが重要です。単元デザインを通して、育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図りましょう。

### 「主体的・対話的で深い学び」と「問い」

「主体的・対話的で深い学び」とは、子供たちがどのように学んでいる姿を示しているのでしょうか。「学力向上推進プロジェクト」では、学習の過程で子供たちに「問い」が生じているかどうか重要な視点であるとしています。

例えば一単位の授業を考えてみると、子供たちの「問い」やつぶやきを生かした「めあて」を設定することで、「(課題を)解決したい」、もっと「考えたい」など主体的な学習につながり、対話の場面で「問い」が生まれることで、自分の考えを広げ深める活動になります。また、学習過程を振り返る活動が充実していると、学習した内容の確認だけにとどまらず、「なぜ〇〇は〇〇なのか」「次はこれが知りたい」

「〇〇でもやってみよう」など、次の学習へつなげていく（学びの連続性）上で重要な「問い」が生じます。さらに、単元全体やまとまりを見通して課題を追究していく学習においても、子供たちから生じる「問い」を生かすことができるかどうか重要になってきます。

### 「問い」を引き出す教師の手立て

「問い」が生まれる授業を実現するためには、学習する集団内に支持的風土が醸成されていることが前提であることは言うまでもありません。しかし、支持的風土があれば自然発生的に「問い」が生まれてくるわけではありません。もちろん偶然に「問い」が生まれることもあります。多くの場合、教師の手立てにより子供たちの中から「問い」が引き出されます。

子供たちから生じた「問い」を生かした授業を展開するために、授業構想の段階で、子供から引き出したい「問い」を明確にし、その「問い」を生かすための教材研究や子供たちの思考を揺さぶる発問の吟味など、「教師の手立て」が最も重要になります。

# 「問い」が生まれる日常的な授業モデル

「問い」が生まれる授業についてのイメージを以下の図で示しました。学校においては、沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトIIと併せて、日々の授業改善や校内研修等で活用ください。

